

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3203263号
(U3203263)

(45) 発行日 平成28年3月24日 (2016. 3. 24)

(24) 登録日 平成28年3月2日 (2016. 3. 2)

(51) Int. Cl.

A 4 7 K 3/00 (2006.01)

F 1

A 4 7 K 3/00

B

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2015-6293 (U2015-6293)
(22) 出願日 平成27年11月25日 (2015. 11. 25)(73) 実用新案権者 592112329
上原 邦彦
広島県広島市安佐北区可部九丁目 1 8 番 9
号
(72) 考案者 上原 邦彦
広島県広島市安佐北区可部九丁目 1 8 - 9

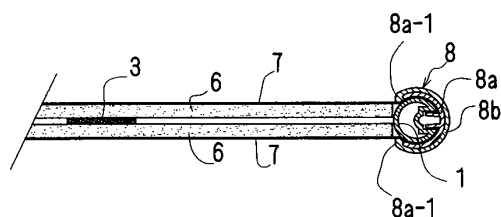
(54) 【考案の名称】 風呂蓋

(57) 【要約】

【課題】 風呂蓋として断熱性芯材に 4 0 倍程度の熱可塑性軟質高発泡材と表装材の厚み 0 . 5 mm 以下の熱可塑性軟質材も組み合わせできる風呂蓋の構造を持ち、表装材として市販のカッティングシートやテーブルクロスが使用でき色や柄の種類を増やせる風呂蓋を提供する。

【解決手段】 本考案に関わる風呂蓋はたわみ強度保持部と断熱部を分離する構成を採用する。風呂蓋周縁近部に蓋としての外形を維持することを役割とするフレーム 1 を設置し、フレーム内辺から内辺に補強材 3 を連結するとよりたわみ強度の向上をおこなうこともでき、発泡樹脂からなる断熱性表装側芯材 6 の両外側に熱可塑性樹脂からなる表装材 7 を有し、この表装材 7 がフレーム 1 の上下面または外側側面に固定され、このフレーム 1 に熱可塑性樹脂からなるエッジプロテクター 8 が装着されている。

【選択図】 図 5



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

風呂蓋の周縁近部に風呂蓋としての外形を維持することを役割とするフレームを設置し、表装材がフレームの上下面、また外側側面に固定されていることを特徴とした風呂蓋。

【請求項 2】

前記フレームの内辺から内辺に、補強材を設けたことを特徴とする請求項 1 に記載の風呂蓋。

【請求項 3】

前記フレームは 2 つ以上分割されており、このフレームの分割部分はフレームジョイントで連結することを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の風呂蓋。

10

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、風呂蓋、とくに複数枚を浴槽上に並列させて使用するいわゆる組合わせ風呂蓋に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

浴槽の上面を覆う風呂蓋に関しては、これまでいろいろなタイプのものが開発されてきているが、その中の一つに 2 枚またはそれ以上に分割した板状の蓋本体を浴槽の上面で組み合わせて使用する組合わせ蓋が知られている。

20

【0003】

図 10 は従来タイプの組合わせ式風呂蓋の一例でありその断面を図 11、図 12 に示す。合成樹脂発泡体や中空状コア材等からなる断熱性芯材 10 の表裏面にアルミニウムまたは硬質樹脂製の表装材 7 を積層して板状本体 11 となし、この板状本体 11 の周縁部に滑り止め効果を有するエラストマー製のエッジプロテクター 8 をはめ込んで構成したものである。

【0004】

まれではあるがたわみ強度を補強するために図 11 と図 12 に示す板状本体 11 とエッジプロテクター 8 の間にアルミニウムまたは硬質樹脂製の補強材 3 を取り付けて構成したものもある。

30

【先行技術文献】**【特許文献】****【0005】**

【特許文献 1】特開 2003 - 190033 号 公報

【特許文献 2】特開 2006 - 326114 号 公報

【考案の概要】**【考案が解決しようとする課題】****【0006】**

しかしながら、これらの風呂蓋には断熱性芯材に 40 倍程度の熱可塑性軟質高発泡断熱材と厚みが 0.5 mm 以下の熱可塑軟質表装材を組み合わせた風呂蓋はなかった。

40

【0007】

この本考案はこの課題を解決するために第 1 の目的は、断熱性芯材に 40 倍程度の熱可塑性軟質高発泡断熱材が使用できる風呂蓋構造を提供することにある。また、第 2 の目的は表装材の厚みが 0.5 mm 以下の市販のカッティングシートやテーブルクロスが使用できる色や柄の種類を増やせる風呂蓋の提案を目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0008】**

上記第 1 の目的を達成するために、本考案に関わる風呂蓋はたわみ強度保持部と断熱部を分離する構成を採用する。

【0009】

50

周縁近部に蓋としての外形を維持することを役割とするフレームを設置し、フレーム内辺から内辺に補強材を連結するとよりたわみ強度が向上する。

【 0 0 1 0 】

フレームの断面形状としては重量が低減できるパイプ形状か I 形状が望ましい。

【 0 0 1 1 】

フレームの材料としては、ステンレス、アルミ、硬質樹脂等が使用可能である。

【 0 0 1 2 】

補強材の断面形状はパイプ形状、I 形状、フラットバー、荷作り用のバンド、荷作り用ひも、釣り糸等が使用可能である。

【 0 0 1 3 】

補強材の材料としては、ステンレス、アルミ、硬質樹脂、荷作り用の P P、釣り系のナイロン、ポリエチレン等が使用可能である。

【 0 0 1 4 】

上記第 1 の目的を達成するために、上下面の表装材は自身の張り維持とフレームの変形防止の目的でフレームの上下面または外側側面に固定する構成を採用する。

【 0 0 1 5 】

表装材の固定方法としては接着貼り付け、粘着貼り付けまたはパイプに凹部を作成し挟み込み固定機構も採用可能である。

【 考案の効果 】

【 0 0 1 6 】

本考案の風呂蓋は、第 1 に断熱性芯材に 4 0 倍程度の熱可塑性軟質高発泡材が使用できる風呂蓋構造を提供することことができる。また、第 2 に表装材の厚みが 0 . 5 mm 以下の市販カッティングシートやテーブルクロスが使用でき色や柄の種類を増やせる風呂蓋の提案ができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 7 】

【 図 1 】 本考案に係わる風呂蓋の一実施形態を示す斜視図である。

【 図 2 】 本考案に係わる風呂蓋の一実施形態を示す斜視分解図である。

【 図 3 】 図 1 内に示す A - A 断面図である。

【 図 4 】 本考案に係わる他の実施形態を示す斜視破碎断面概略図である。

【 図 5 】 図 4 の B - B 断面図である。

【 図 6 】 本考案に係わる他の実施形態を示す斜視破碎断面概略図である。

【 図 7 】 図 6 の C - C 断面図である。

【 図 8 】 本考案に係わる他の実施形態を示す斜視破碎断面概略図である。

【 図 9 】 図 8 の D - D 断面図である。

【 図 1 0 】 従来風呂蓋の斜視図である。

【 図 1 1 】 図 1 0 の D - D 断面一例図である。

【 図 1 2 】 図 1 0 の D - D 断面一例図である。

【 考案を実施するための形態 】

【 0 0 1 8 】

以下、本考案を図示実施形態に基づいて説明する。

【 実施例 】

【 0 0 1 9 】

図 2 は、フレーム直部材 1 a とフレーム曲げ部材 1 b をフレームジョイント 2 を用い勘合接着され、補強材 3 がフレーム曲げ部材 1 b の厚みのほぼ中央に位置するよう補強材ジョイント 4 を用いあらかじめフレーム曲げ部材 1 b に設けられた切り欠き部に勘合接着され組み立てフレーム 1 として組み立てられる、またフレーム内中空部にはウレタン発泡を行い水の浸入も防ぐことができる。

【 0 0 2 0 】

フレーム曲げ部材 1 b の内辺に補強材ジョイント 4 を用いて補強材 3 を組み立てられる

10

20

30

40

50

。

【 0 0 2 1 】

組み立てフレーム内辺と補強材 3 内辺間のサイズに切断した補強部材 3 厚みに近似値厚みの断熱性芯材 5 とフレーム内辺サイズに切断したフレーム 1 厚みから補強材 3 厚みをマイナスした数を 2 で割った数に近似厚みの断熱性表装側芯材 6 をフレーム内に組みこむ、このとき断熱性芯材 5 と断熱性表装側芯材 6 の合い面に粘着剤や接着剤を用いることもある。

【 0 0 2 2 】

図 2、図 3 に示すように組み立てフレーム外形より広い表装材 7 を粘着剤または接着剤にてフレームの上下面または外側側面に貼り合わせる、このとき熱風を用い表装材 7 を伸ばしながら貼ることもできる。また、断熱性表装側芯材 6 と表装材 7 の合い面に粘着剤や接着剤を使用することもある。

10

【 0 0 2 3 】

図 3 に示しているようにエッジプロテクター 8 は硬質樹脂部の 8 a と浴槽上との滑り止めの役目を果たす軟質樹脂部の 8 b を同時押し出し成形されたもので剥離することはない。また、硬質樹脂部 8 a の上下開口端にはフレーム 1 b 上の表装材 7 の高さより上下約 1 mm 嵌込み状取り付けられる硬質樹脂部嵌込み部 8 a - 1 を設けてあり、一度フレーム 1 に装着されると安易に外れない。

【 0 0 2 4 】

表装材 7 のフレーム内側上下立ち面の段差は、表装材 7 の貼り合わせ時段差分厚みの板治具を用いて段差を作成するか、エッジプロテクター 8 の装着時熱風を当て表装材を伸ばすことで段差の作成が可能である。

20

【 0 0 2 5 】

図 4、図 5 はフレーム 1 の外形が円形をした実施例で有り補強材 3 にフラットバー形状を用いた実施例である。

【 0 0 2 6 】

図 6、図 7 はフレーム 1 の外形が I 形をした実施例で有り補強材 3 に釣り糸形状を用いた実施例である。

【 0 0 2 7 】

図 8、図 9 はフレーム 1 の外形が方形で外側上下に表装材 7 を上下別々なエッジプロテクター 8 b で固定した実施例である。

30

【 符号の説明 】

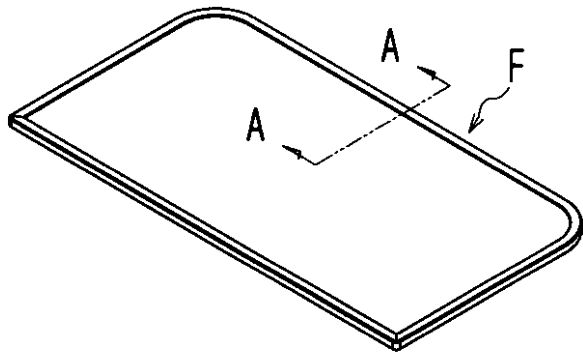
【 0 0 2 8 】

F	風呂蓋
1	フレーム
1 a	フレーム直部材
1 b	フレーム曲げ部材
2	フレームジョイント
3	補強材
4	補強材ジョイント
5	断熱性芯材
6	断熱性表装側芯材
7	表装材
8	エッジプロテクター
8 a	エッジプロテクター硬質樹脂部
8 a - 1	エッジプロテクター硬質樹脂部嵌込み部
8 b	エッジプロテクター軟質樹脂部
9	水抜き穴
1 0	断熱性芯材
1 1	板状本体

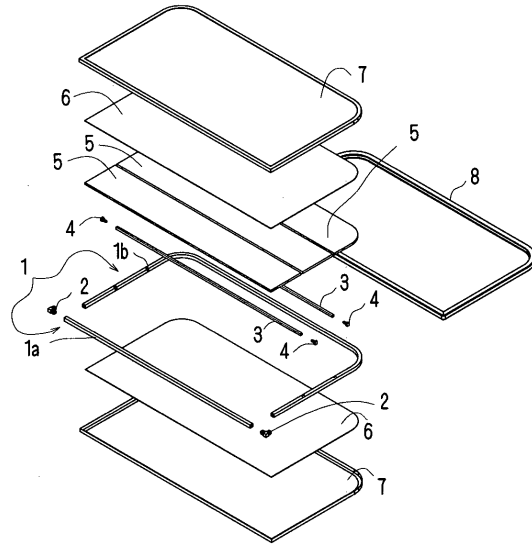
40

50

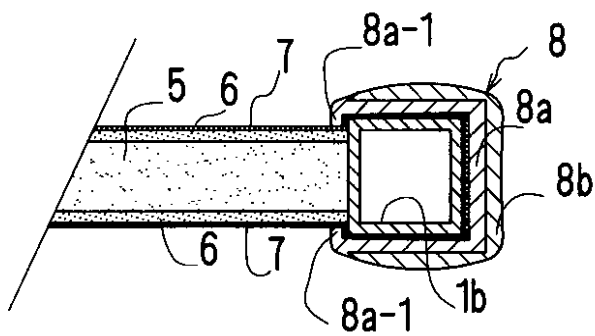
【図 1】



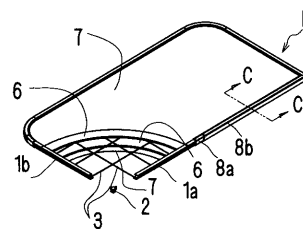
【図 2】



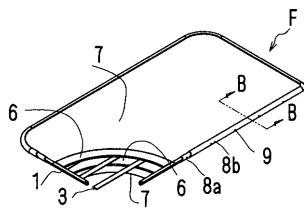
【図 3】



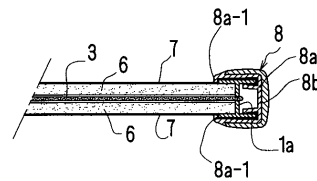
【図 6】



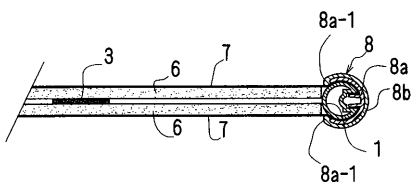
【図 4】



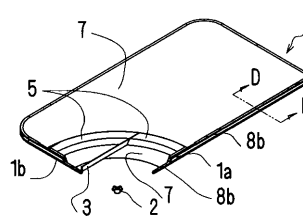
【図 7】



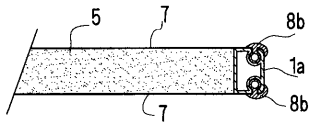
【図 5】



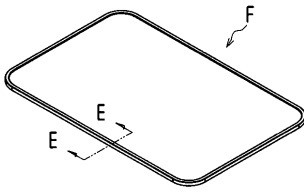
【図 8】



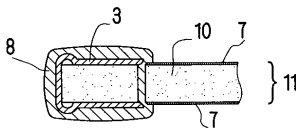
【図 9】



【図 10】



【図 11】



【図 12】

